

菜 種

なたね
農業委員会だより

編集と発行
北栄町農業委員会
北栄町由良宿423-1
TEL(0858)37-3135



大栄^か花き部会ストック役員 塚本 茂雄 さん（大谷）

「八重鑑別」ってご存知ですか？スイカの裏作として栽培されている「ストック」は、八重と一重があり、価値の高い八重を残すため「鑑別」をします。大谷の塚本茂雄さん（35歳）のハウスでも、8月中旬から「八重鑑別」が始まっていまし

た。「いつもは妻と母が鑑別をして、自分はフラワーネットを張る作業をしています」とのことでしたが、色や形の微妙な差を見極める作業を、手早くされていました。

ストックの役員でもある塚本さん。「大栄のストックは長年

栽培をしていて市場での評価が高いので、今後もその評価を落とさないよう頑張ります。今年は、新しい生産者も増えたんですよ」と抱負を語ってくださいました。

（取材 杉川 一二美）

申請書（議案）締め切り日と総会の予定 （令和元年10月～令和2年1月）

月	申請書 締め切り日	総会日（予定）
10月分	（受付終了）	10月10日（木）
11月分	10月25日（金）	11月12日（火）
12月分	11月25日（月）	12月10日（火）
1月分	12月25日（水）	1月10日（金）

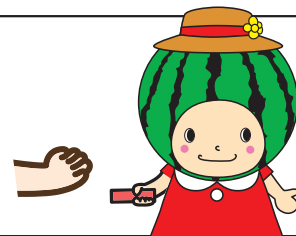
【主な内容】

- 大栄西瓜からバトンリレー『わたし達』の出番です!!
- 遊休農地解消に向けて ～麦栽培の取組み～
- 農地利用状況調査を終えて

今号は
「あんほ柿・
ころ柿セット」!

第6弾 農産物プレゼントクイズ

スイカ 大栄西瓜からバトンリレー 『わたし達』の出番です!!



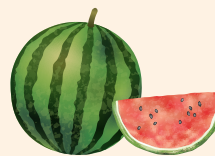
大栄西瓜のシーズンが終わり、収穫の終わったハウスでは休む間もなく『わたし達』（キュウリ、メロン、ミニ・中玉トマト、花、ホウレン草、小松菜、小玉スイカ、葉ネギ）の9品目が栽培されています。ここでは、その一部を紹介します。

- ①いつ頃から作っていますか？
- ②この作物を選んだ理由は？
- ③一言どうぞ
- ④年間スケジュール

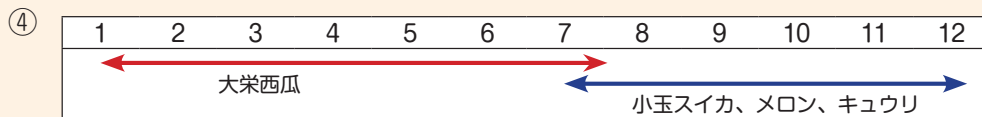


●抑制小玉スイカ

面積 約70aのハウスで小玉スイカ、メロン、キュウリ、小松菜
作業人員 3人



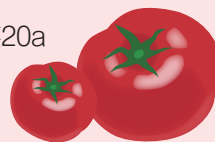
- ①約20年前から
- ②スイカにとっても愛着があって、大玉が終わって、クールダウン的に作ってます。
- ③主にメロン、キュウリが占めていて、小玉スイカの面積は少ないが、スイカがやめられません（笑）（取材 齋尾 直久）



たくゆき
宮本 卓行さん
(亀谷)

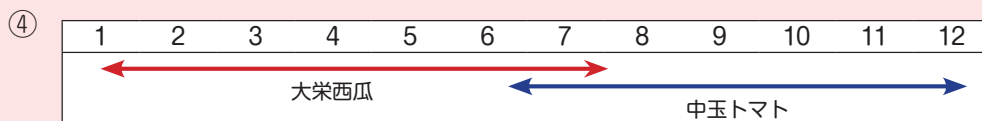
●中玉トマト

面積 中玉トマト15a、ホウレン草30a、ブロッコリー20a、小松菜20a
作業人員 4人+パート2人



- ①平成12年から
- ②JAオリジナル野菜友の会が発足したことがきっかけ。
- ③就農して3年目。「甘くておいしかったよ」と言ってもらえるのが嬉しく、今後もリピーターをもっともっと増やしていきたい。

(取材 濱根 泰弘)



あやか
山下 礼華さん
(妻波)

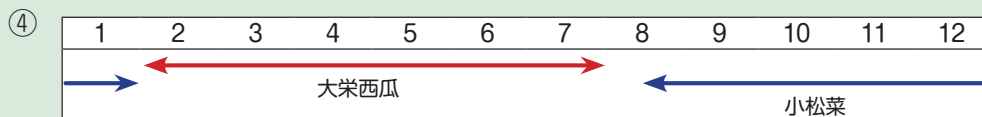
●小松菜

面積 20a (ハウス10棟)
作業人員 2人



- ①10年前から。裏作は小松菜のみを栽培。
- ②栽培管理に手間がかからず、一人でもできる。他の野菜のような初期投資がいらぬ。出荷調整に手間がかからない。
- ③ハウスで約2回転作っています。昨年は町全体の栽培面積が増大し、一億円達成しました。

(取材 竹信 啓子)



古谷 悦子さん
(高千穂)



遊休農地解消に向けて ～麦栽培の取組み～

中北条地区委員

(池田 誠、石井 通人、前田 浩明、谷口 廣志)



2018年
11月15日
麦まき



2019年
6月3日
刈取り

中北条地区4名の委員で砂丘地の遊休農地解消の1つの手段として昨年11月15日、江北浜地区で30aの畑に麦をまきました。

麦を選んだ最大の理由は、現在使用している作業機を新たな投資をすることなく利用できると言う点、将来的に現在の営農組織が法人等になった場合、個人で管理出来なくなった土地の利用ができると考えたからです。6月に刈り取りを行った結果、収量は県平均よりやや多くありましたが、品質は改良の余地があるとの結果です。

現在、砂丘畑では、葉タバコ、ラッキョウ、白ネギ、ブドウ、長芋等が作られています。今以上の規模拡大となると頭打ちの感があり、遊休農地を増やさないためにも麦も一つの手段として考えておく必要があるのではないのでしょうか？

(文・前田 浩明)



農地利用状況調査を終えて

8月から9月にかけて、町内全域の農地の一斉調査を行いました。本年度は「住宅密集地内にある小規模な農地」に重点を置いて調査を行いました。以下は2名の委員からの感想です。

永田 恭彦 (東園地区)

タブレット (注) の導入により、これまでは判別が難しかった小規模農地の調査がやりやすくなりました。また、竹やぶに囲まれた農地など、山林との境界線があいまいになりがちな場所についても実態の把握が可能となりました。

毎年の調査がしっかり情報として積みあがって



いくので、今後の活動にも有効活用できるものと思います。

(注) 平成28年度に導入
(農地情報システム)

一二三 満雄 (由良地区)

担当地区は、町道2316号線 (六尾大谷線) 由良宿地内～駅南 (2区、7区) で、比較的農地が少なく、しかも小面積の農地が多い地区です。

遊休農地が点々とあり、本年は水田で遊休農地の判定があり増える傾向にありました。

今後の課題は、不作付地や水田が遊休農地にならないように所有者、耕作者に維持管理 (草刈り、耕起等) していただくように働きかけていくことです。



7/30 第8回青年農業者研修会

前回に引き続き、鳥取大学農学部 山本定博教授に「未来へ繋げる土づくり (3)」と題して講演いただき、「世界規模から見ても北栄町の黒ぼくは世界に誇れる」との説明をお聞きました。講演後、グループに分かれて活発な意見交換が行われました。



農産物プレゼントクイズ

田村さんちの あんぽ柿・ころ柿セット

(3名様)

クイズ

中北条地区委員が取り組んだのは？

答え

○の栽培

(ヒント 3 ページをご覧ください)

応募箱に備え付けの応募用紙、ハガキ等またはメール本文に、○に入るクイズの答えと、住所・氏名・年齢・電話番号・「菜種」へのご意見、ご感想を書いて、郵送、持参、メール（下記アドレス（右下の QR コードで読み取り可能））で応募してください。ただし、応募は町内在住の方で1世帯につき1通に限ります。

- ・応募箱は、北栄町図書館本館・北条分室に置いています。
- ・当選者にはお電話します。
- ・賞品の受け渡し場所は、農業委員会事務局です。

応募期限：令和元年10月31日(木) (当日消印有効)

郵送先：〒689-2292 東伯郡北栄町由良宿 423-1

農業委員会事務局「農業委員会クイズ係」

メールアドレス：nougyouiinkai@e-hokuei.net



前回の正解は らっきょう (共) 乾燥調整施設 でした

空き農地情報バンク

売買、賃借に至らなかった農地について、買い手・借り手を探しています。

《売りたい・貸したい》

No	農地の所在	地目	面積(a)
1	江西北馬場谷 4002 (賃借)	畑	9
2	由良宿西内浜 2396 (売買)	畑	10
3	大谷大ナル 4258 (売買・賃借)	畑	32
4	大谷米垣 4375-1 (売買・賃借)	畑	28
5	大谷米垣 4375-2 (売買・賃借)	畑	7
6	大谷米垣 4375-3 (売買・賃借)	畑	4
7	大谷米垣 4375-4 (売買・賃借)	畑	0.3
8	大谷上白水橋 2261 (売買・賃借)	畑	25



ホットたいむ

読者の方から可愛らしい手作り人形をいただきました。ありがとうございます！



▲柿のヘタの上におすもうさんが3体乗っています



▲約10cmの高さのミニ人形で作られています

親子で

農業者年金に加入しています



(写真左から)
村岡 薫さん(81歳)
茂さん(55歳) (茶や条)

茂さんは高校卒業後、鳥取県園芸試験場で研修を終え就農されました。現在は、大栄西瓜を1ha、後作にミニトマト、ホウレンソウを栽培している専業農家です。

父の薫さんは、加入当時を振り返って「よく覚えていないが、国民年金だけでは不安だったかもしれん」と話され、「加入期間が短かったので支給額は少ないが、それなりに満足している。加入してきて良かったと思っている。若いうちは子育て

等に費やされて余裕もないだろうけど、将来(老後)のことを考えて、貯蓄だと思って少しでも掛金に回すことにすればええになア。新制度は女性も加入できると聞いたが？(取材者「そのとおりです」)ええことだなア」と穏やかに話されました。

茂さんは、「今は掛金を支払っている立場で何とも言えないが、父の言葉を信じて支給されるのを楽しみに待ちたいと思います。子どもがまだ小さいし、少しでも多く残してあげたいので今は頑張るのみです」と期待を込めて話してくださいました。

(取材・文 齋尾 直久)

加入要件

- ①年間60日以上農業に従事
- ②国民年金の第1号被保険者(なお、保険料納付免除者は除く)
- ③年齢が20歳以上60歳未満

お問合せは、お近くの農業委員または農業委員会事務局まで

編集後記

第40号の発行になり、初刊より10年を迎えました。これには熱心に愛読された皆様、取材に快く応じていただいた皆様のおかげだと感謝申し上げます。これからも充実した誌面で皆様に提供してまいりますので、今まで以上ご愛読いただきますようお願いいたします。

★梅雨明けかと思ったらいきなり猛暑で身体が慣れず、西瓜の後片づけ、畦草刈等、はかどらない毎日…。しかし、へとへとになりながらも夕方のビールはどうしてもやめられない(笑)とはいえ、段々と朝夕は涼しさを感じ、季節の移り変わりを感じているこの頃です。

★ドライブレコーダーは、交通事故の証拠記録のために搭載され、事故の抑止にも役割を果たしています。昨今は「あおり運転」に対する監視カメラと用途が多様化し、需要が増加しているようです。我が家でも考える時が来たかも…。

(文・齋尾 直久)

広報委員／杉川 一二美・濱根 泰弘・池田 誠・前田 浩明・永田 恭彦・齋尾 直久・竹信 啓子・一二三 満雄

～生命の種を蒔いて 地球を守ろう～

菜種

なたね
農業委員会だより

第40号

号外

創刊10周年記念号

2009年秋に創刊した本誌は、年4回の発行を積み重ね、おかげ様で第40号、創刊10周年を迎えました。それを記念し、これまで編集に携わってきた方々にコメントをいただきました。





な たね
「菜種」への想い
淀瀬 千賀子さん
(初代広報委員長)

久しぶりに「菜種」に接する機会を与えていただき感謝いたします。
私にとって「菜種」は思い出がいっぱい詰まった広報誌です。
当時、農業委員として農業関連について研修していくうちに、農家の人の問題点の「声」を聞いたり、農業委員会からの情報発信をしたりする広報誌の必要性を感じていました。諸事情等、クリアして広報委員会が発足された時は本当に嬉しかったです。

実現した理由のひとつとして、当時会長をされていた近藤会長の「思いっきりやってみろ」と私達女性農業委員の背中を押してくれた事でした。

素人の広報誌作りは本当に難しく、手探りの状態でしたが、広報委員全員で力を合わせて記事を集めたり、慣れない記事を書いたりと楽しかった事が思い出されます。

「菜種」は地域のひとと農業委員会の伝言板だと思います。これからも私達にたくさん情報と楽しい記事を届けてください。待っていますよ！



最優秀賞 受賞時の様子
2012 (H24) 年4月10日
第18回「農業委員会だより」
全国コンクール表彰式



婚活で8組成立
森本 真理子さん
(2代目広報委員長)

私は2代目広報委員長として12号から22号を担当しました。事務局の阪本さんが考えられる表紙を飾る川柳は感動ものでした。毎号、委員全員で力を結集しました。

20号では、農地適切利用啓発事業として、委員会がモデル的に遊休農地の復元として六尾北団地北側の遊休農地にかぼちゃ、ひまわりを植え、地域の方と収穫した様子の写真を多く入れ掲載しました。かぼちゃは北栄まつりでも販売しました。

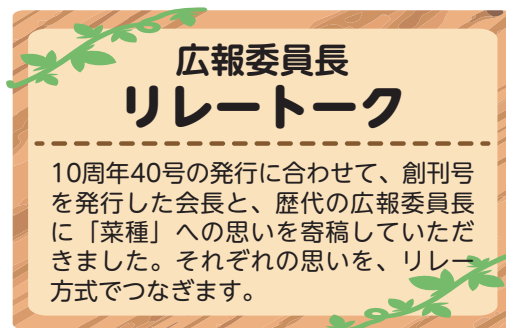
21号では、農業担い手結婚支援事業として、ほくえい恋活メグリツアーと題し、町農業委員会が主催した様子を特集し、掲載しました。男性は事前研修のおかげか、終わってみると8組もカップルが誕生しました。

あの当時、取材した農業後継者たちも地域のリーダーとして育っておられるようです。

農業するなら北栄町で。今後も農業委員会の益々の飛躍を願っています。



全国コンクール受賞時の広報メンバー
(右端が森本さん)



菜種の生い立ち
近藤 貞裕さん
(創刊時の農業委員会会長)

私は会長に就任して、もっと深く検討する体制がほしいと思い、農政部会、農地部会、広報の3部会を作り、ここで検討してもらい、全体会議で審議、決定するよう改変いたしました。その中で農家と委員会との接点を作りたいと思い、農業委員会だよりを発行する事になりました。たよりの名前で意見が出てきた中で、委員長が「農業の元は土地に種をまく事から始まる事だから菜種では」との意見で、北栄町農業委員会だよりは菜種だよりに決定しました。始めはA4 1枚しか予算が付かず、町と交渉で予算を付けてもらい思うような書面に成り、委員長に同じやるなら日本一をめざせと檄を飛ばし頑張り、本当に日本一に成りました。



2012 (H24) 年4月12日
全国表彰を県知事に報告 (県庁にて)



仲間とともにつっ走った3年間
～菜種という宝のあしあと～
盛山 由紀子さん
(3代目広報委員長)

農業委員改選1ヶ月後発行の菜種第23号は、委員の紹介で精一杯でした。その後3年間のテーマを「夢と希望の持てる農業」とし、わかりやすく親しみやすくするために、「農地Q&A」と「ホットたいむ」のコラムを登場させました。2年目は、新日本海新聞社に私達が作った菜種を持って行き、感想を聞いて研修を受け、字の配列等がらっと紙面を変えました。最後の1年は農業委員の見える化に努め、新しい農業委員会制度についてシリーズでお伝えしました。

最後の反省会で、「頼りない広報委員長だったからこそ、僕ら委員が支えてあげないと」と思い、皆で知恵をしぼって協力して楽しい3年間だった」と言ってもらいました。ユニークでユーモアいっぱいの広報委員のメンバー、快く取材に応じて下さった方々、親身になって力になって下さった事務局、多くの出逢いに感謝です。



当時の広報メンバー
(左端が盛山さん)



10周年記念号によせて
杉川 一二美さん
(現・広報委員長)

令和元年の現在は、委員8名で「みんなに寄り添う広報誌」をテーマに、昨年の7月号から発行しています。ホットする話題の「ホットたいむ」を引き継ぎ、新しく「プレゼントクイズ」を始めました。読者の皆様にはいつも「菜種」に寄り添ってくださり感謝しています。

編集会議では、先輩方が作られた「菜種」を手元に置き、参考にしながら「伝える工夫」を考えています。時に、編集から脱線して始まる農業談義が私は好きです。委員長なので話を戻さなければなりませんが、そんな談義に魅力を感じています。

各々が記事を書き、8名が力を合わせて編集をし、事務局の力も加わって「菜種」ができています。これからも、より一層「みんなに寄り添う広報誌」を目指します。



現在の広報メンバー
(左から2番目が杉川さん)